



再生紙を利用しています。

入塾案内書

願書用紙付き

2015年度 第23期

塾生募集

地域を知り 地域を愛し 地域を誇れる ひとつづくり



島マス記念塾



設置主体 沖縄市社会福祉協議会
運営主体 島マス記念塾塾務会
沖縄市住吉1-14-29 ☎098-937-3385
E-mail masu@okicityshakyo.com

島マス記念塾 検索





塾長 名 嘉 隆 一

熱いハートを求めます！

なんじ
「汝自身の足下を掘れ、そこから泉が湧き出るであろう」。ドイツの哲人ニーチェの言葉です。

さて、私たちはどれだけ私たちが暮らすこの街のことを知っているのでしょうか？

文化や歴史・人口・風土・環境などが異なる地球上のどんな地域にも、

独自の愛し誇れる大切な資源があります。あるいは眠っています。

そして、その資源こそ私たちににとってかけがえのない財産であり、宝物なのです。

もちろん、それを掘り起こすのはそこに暮らす私たちです。

当塾は、福祉の専門家を養成する塾ではありません。

社会福祉をはじめ、経済・産業・法律・医療など人間が生活を営むために必要なすべての事からについて、

「島マスの福祉哲学」のフィルターを通して、物事を捉えていく場です。

さあ！掘り起こせばきっと新しい感性が芽生えます。感性は可能性を育み、地域に活力を与えます。

クリエイティブな時代の建設をめざして…。

島マス記念塾は、熱いハートを持ったあなたを求めます！

建塾の趣意

21世紀まで秒読みという時期を迎えて今、社会福祉は大きく変わろうとしている。

すなわち、地域住民と密着した地方自治主導型の方向に沿って、社会福祉関係法が改正され、とりわけ老人ホーム等への入所措置権の町村移譲により、在宅福祉と施設福祉を市町村において総合的に実施する体制が新たに構築されることになった。さらに老人保健・福祉の総合的展開を図るために、市町村では、目下老人保健福祉計画の策定に取り組んでいるところである。

平成5年はまさにこれらの施策が実施に移される極めて重要な年であり、このなりゆき如何は地域住民の福祉に直接かかわるだけに公私の関係者の協働で住民の意識の啓発、高揚並びに住民自らが実践し、活動することができる各種の事業を積極的に展開することが強く求められている。

このときあたり、私たちは地域を知り、地域を愛し、地域を訪れる人材を創出することを目的とし、戦後沖縄の社会福祉の歴史を象徴する故・島マスを顕彰する記念塾を設立を決意した。

島マスは戦後沖縄の抱える複雑な社会問題に果敢に取り組み、地域福祉活動の礎を築き、多くの人々にはかり知れない影響を与えた人である。私たちは、島マスの福祉哲学を踏襲するなかで県内外の一流の講師陣から社会全般にわたる知識並びに理念を習得した塾生を輩出することにより、平和・福祉・文化を基調とする、人と人が支え合う福祉社会の形成に寄与することを確信するものである。

よって、ここに「島マス記念塾」の設立を発起する次第である。

平成5年4月9日



島マス記念塾に入塾しての感想

島マスに入ってすぐの頃に、夏季キャンプをしたおかげでみんなとすぐに仲良くなれて良かった。講義も面白くて、ためになっています。マス塾には大大満足です。

1年間楽しんで、塾生の皆と協力し合いながら学びたいと思います。講義は為になります。普段聞けない話や、身近な事で当たり前に考えていた事を、違う視点で考えさせられたり、自分の身に降りかかった場合の事を想定したり・・・これからも講義が楽しみです。

講義は講師の先生方が多彩な顔ぶれで本当に楽しいです。勉強になることも多く参加して大満足です。20期生については、皆さま活動的で、先輩方にも誇れる頼もしい仲間が集い、島マス記念塾史に名が残るのではないかと思います。



素晴らしい講師！受講生の緊張感！！素晴らしい！！！！多種多様ないろいろな講義があり、自分自身体験していない分野やジャンルもあり、講師との質疑応答などで質問すら考えきれないほど頭がいっぱいになったり、もやもやしたりするのですが、刺激になっていい感じ！大人になって、このような体験ってあまりない！と思います。



講義の内容にはとても満足しています。合宿やフィールドワークも楽しい経験ができました。時間が経つのがあっという間なので、どんどんいろんな事を企画して楽しんだ方がいいなと思いました。

塾生や事務局の貪欲に日々を楽しんでいる姿に感銘をうけました。私にとって、新しいチャレンジは、出来上がってしまった日常の歯車を狂わすことなので、少し腰がひけてしまいがちです。でも、いったん身を乗り出してみると、すごく楽しいもので、いままでいちいち頭でストップしていたことがもったいないと感じました。少し前のめりに、行動を起こす。そういう姿勢になっていけるよう、今後も多くのことを島マス塾から学んでいきたいです。



島マスに入塾して感じたことは、「自分の興味や関心の幅を自分で決めてはいけない」ということです。興味のないジャンルの講義でも、受けてみると面白かったり、いまままで触れる機会のなかった分野の先生のお話を聞ける環境は、多方面からの視点で物事を捉えられてとても新鮮です。

今まで、世間知らず、沖縄知らずの私でしたが、マス塾に入塾してから、これまで目をそむけていた、あるいは自分の中になかった概念に触れることができました。私の人生の中でものすごい進歩だと思います。



福祉って、生真面目なイメージでしたが、マス塾でそうじゃあないんだ、こんなあ人たちもいるんだと、ちょっとびっくり、こんなあって、どんなあ？と思うはずですが、百聞は一見にしかずという言葉もあります。経験してみてください。きっと面白いはずです。

大満足。己のアンテナが働いていると興味ある事柄は自ずと私の前にやってくる。それ故に興味のある講演会などへは自ら参加している。しかし、塾では興味の有る無しに関わらず講義が組まれているので、必然的に受講することになる。それが面白いですね。自分で選んでない内容の毎回の講義が楽しいです。

「飲みにケーション」がサイコーです。講義に対する話あり～の雑談あり～の、講義の中でも飲みにケーションでも、異なる職種や性格から出た意見は様々でとても楽しいです。



塾生の様々な意見やアイデアを自らキャッチするか否かは己の行動力。島マス記念塾に参加して来ただけあり、殆どの塾生が積極性に優れていると思う。労力を惜しまず力を貸してくれる仲間が大好きです。ありがとうみんな！

島マス記念塾

2015年度塾生（第23期生）募集要項

- 募集人員 おおむね25名
- 受講期間 1年間(2015年4月9日入塾式～2016年3月13日卒塾式)
- 募集期間 2015年1月15日～2015年3月13日
- 応募要領 入塾願書（所定のもの）1通を申し込み時に提出する。
※原則として、本人が記入すること。なお、願書は返却しません。
- 入塾資格 当塾の趣旨に賛同する者で、以下の要件を満たす者。
 - ①年齢満20歳以上45歳以下の者。
 - ②沖縄市に住んでいる者。もしくは沖縄市で就労している者。
 - ③特別枠として、沖縄市外の者を若干名募集する。
- 受講料 年間25,000円
※原則として、全額を前納とします。ただし特別な事情に限り、初回分・10月期と2期に分けて納めることも可能とします。
 - ①受講料(全額もしくは分割による初回分)は、オリエンテーションに納付となります。
 - ②他にキャンプセミナー、フィールドワーク等で参加費が必要となります。
 - ③いったん収めた受講料は、返金しません。
- 入塾説明会 入塾について詳しく知りたい方は、次の入塾説明会に参加してください。
 - とき 2015年2月26日(木) 午後7時30分～8時30分
 - ところ 沖縄市社会福祉センター2階会議室



■講義内容

塾は毎月2回（原則として隔週の木曜日、19:00～21:45）・1日2コマ（年間約50コマ）行います。基本的なスタイルは一般講義形式とフリーディスカッション形式です。他に①キャンプセミナー（夏季と秋季）、②各種グループ・ツアー（フィールドワークⅠ～Ⅲ）を開催します。また特別講義もありますが、出席には含まれません。〔講義リスト〕①島マス論、②社会福祉、③産業・経済、④文化、⑤歴史 ⑥コミュニティビジネス、⑦地域づくり、⑧物づくり、⑨その他
応募者多数の場合、提出書類を元に書類選考を行います。また、必要に応じて問い合わせや面接をすることもあります。

■入塾選考

■選考結果

選考結果は3月20日までに電話・メールもしくは文書でもって通知します。
※原則として、可否の問い合わせには応じられません。

※入塾が決定した方は、下記のオリエンテーションにご参加ください。

とき 2015年3月26日（木）午後7時30分～9時

ところ 沖縄市社会福祉センター2階会議室

■体験入塾

将来、入塾を希望される方を対象に一日体験入塾を実施しています。事前のお申し込みが必要となります。詳細は、下記事務局までお問い合わせください。

■問合せ先

〒904-0003 沖縄市住吉1-14-29 TEL098-937-3385 FAX098-937-3422

E-mail masu@okicityshakyo.com

沖縄市社会福祉センター内

社会福祉法人 沖縄市社会福祉協議会「島マス記念塾」事務局まで

■注意事項

①応募書類に不備や記入漏れがあるときは、応募を受け付けません。

②出願書類の記載事項に不正があった場合は、入塾を取り消す場合があります。



島マス記念塾2015年度

■ 専任講師
□ 講師



おやかわ おさむ
親川 修

テーマ
沖縄の福祉ビジネスとユニバーサルデザイン

①1963年7月13日②沖縄市③那覇市④NPO法人バリアフリーネットワーク代表、那覇空港しようがいこうれいお観光案内センター代表、沖縄県児童サービス連絡協議会会長⑤「福祉業界にいなかったからこそ出来たバリアフリー(BF)とユニバーサルデザイン(UD)」難く考えずに、すべて気づきから始まるBFとUDを沖縄から発信中。⑥障害者や高齢者に特化した観光冊子「そらくる沖縄」を毎年発行。



やびく いさお
屋比久 功

テーマ
ディベート入門
-スリリングな世界へあなたを誘う-

①1958年10月11日②沖縄市③沖縄市照屋④沖縄市役所こどものまち推進部長⑤沖縄県地域づくりアドバイザーとしての経験を活かし、沖縄の風土に根差したオキナワディベート道を探求中。



いけま てつろう
池間 哲郎

テーマ
懸命に生きる人々
-日本人こそ学んで欲しい-

①1954年3月13日②沖縄県③東京都大田区④認定NPO法人アジアチャイルドサポート⑤「最も大切なボランティアは、自分自身が一生懸命生きることが信条。⑥著書に「あなたの夢はなんですか 私の夢は大人になるまで生きること」、「アジアの子供たちに学ぶ」、写真集に「モンゴル風と泪」、DVD「懸命に生きる子どもたち」など多数。



あさと しげのぶ
安里 繁信

テーマ
沖縄のまちづくり

①1969年10月7日②那覇市④財団法人沖縄公共政策研究所理事長、シンパホールディングス株式会社代表取締役会長⑤知行合一⑥主な著作等に「日本をあきらめるな」「トップリーダーが綴る元気をもらった一言(寄稿)」など。テレビ番組「素顔のBOSS(OV)」に出演。全国各地でも講演活動中。



しま つよし
嶋 津与志

テーマ
市民ミュージカル
「コザ物語」の時代背景

本名:大城将保①1939年10月18日②玉城村③南城市玉城百名④沖縄県市史編集委員、沖縄市市史編集委員⑥著書に「沖縄戦の真実と歪曲」、「琉球王国衰亡史」映画シナリオに「月桃の花」、「戦場の童」脚本に沖縄市民ミュージカル「コザ物語」、「肝高の阿麻利和」他。



講義風景(22期生)



きんじょう せいじゆん
金城 盛順

テーマ
沖縄での物づくり

①1946年②那覇市③うるま市④沖縄県金型技術研究センター長、財団法人もの作りネットワークおきなわ理事長⑥金型理論論文多数あり、県内外各地で公演活動を行っている。



なかむら さよこ
仲村小夜子

テーマ
障害と生活の質
-豊かな暮らしを求めて-

①1950年代②宮古島市平良③北谷町④沖縄大学、琉球リハビリテーション学院等非常勤講師⑥「>、=、<」をキーワードに、「生活の質の保障・向上」を研究中です。島マス記念塾3期卒。



フィールドワークⅢ「首里城探訪ツアー」(21期生)



通常講義(21期生)



きんじょう こうじ
金城 浩二

テーマ
沖縄が世界に誇れるもの美ら海

①1970年②沖縄市④有限会社海の種類代表⑤98年に沖縄のサンゴの大規模白化を目の当たりにし、サンゴの養殖を仕事にすることを決意。05年、養殖して移植放流したサンゴが世界初の産卵に成功。07年、「人間力大賞」受賞。「内閣総理大臣奨励賞」受賞。著作に「ていだかんかん海とサンゴと小さな奇跡」



しまぶくろ としき
島袋十史樹

テーマ
目からウロコのコーチング
~タイプに合わせたコミュニケーションの手法~

①1967年6月17日②那覇市③那覇市首里④プラスコミュニケーションズ代表⑥コーチングによる業務改善、企業風土の改革、各種トレーニングや個人の目標達成支援を行っている。

講師スタッフ

プロフィール

- ①生まれ年②出身地③現住所④所属機関・団体名、役職名⑤座右の銘・信条など⑥その他(著作物・論文・研究テーマなど)

※五十音順

※テーマはすべて仮題です。

※講師は都合により変更される場合もあります。



ひらた だいいち
平田 大一

テーマ

人づくりの種をまく～文化で拓く、人と地域と未来のはなし(南島詩人的 島哲学論)

①1968年11月7日②竹富町小浜島③読谷村座喜味④(公財)沖縄県文化振興会⑤感動立県!おきなわ宣言⑥著書に「キムタカ!舞台が元気を運んでくる!」、詩集「南島詩人」「現代版組踊肝高の阿麻和利」演出公演。



おんが たかし
恩河 尚

テーマ

首里城と東アジア社会

①1953年9月17日②沖縄市③北中城村喜舎場④沖縄市役所総務部次長兼市史編集担当主幹⑥研究「<コザ>の時代を考える」など多数。



フィールドワークⅡ「沖縄市の戦跡ツアー」(22期生)



ディベートvol.50(21期生)



きたむら きょうこ
北村 京子

テーマ

島マスの人物伝

①1963年12月27日②沖縄市③沖縄市④小学校臨時教諭⑥島マスの孫。島マス記念塾第2期卒。



なか りゅういち
名嘉 隆一

テーマ

島マスの人生と福祉—その精神を継承する島マス記念塾—

①1937年3月21日②北大東村③沖縄市字宮里④社会福祉法人 基督教児童福祉会愛隣園理事長⑥編著に「27度線の南から 沖縄キリスト者の証言」、教会形成の模索・戦後の沖縄における教会の歩と回廊～苦難の中での平和の願い～ 教会はどこに立つのか～基地の街の協会の歩みを通して



夏季キャンプセミナー(20期生)



きんじょう かずひこ
金城 和彦

テーマ

社協活動と島マスのココロ =教科書にはない、もうひとつの視点・論点=

①1961年2月10日②コザ市③沖縄市美原④社会福祉法人沖縄市社会福祉協議会事務局次長⑤福祉には多様性がある。「福祉に関心がない人集まれ!」が信条⑥エッセイに「足首の細い女」「沖縄市社会ユクシ協議会」「スカートめくりの鉄人」「さらば専門家」など多数。



フィールドワークⅠ「コミュニティビジネス視察ツアー」(22期生)



たかだ まさる
高田 勝

テーマ

琉球弧の自然と動物 =沖縄の生活と動物=

①1960年②東京都③今帰仁村④公益財団法人沖縄こどもの国専務理事・施設長⑤信条は「ヒヤミカチ ウキリ」⑥「鶏と人」(小学館)、「鳥学大全」(東京大学総合研究博物館)、「ソーシャル・キャピタルと地域の力」(日本評論社)。琉球弧の「種を残す」を目標に在来動物の保存に力を入れる。



まつもと つよし
松元 剛

テーマ

沖縄の実像を伝える発信力 =命の二重基準と基地問題の深層=

①1965年②那覇市③那覇市④琉球新報社編集局次長兼報道本部長、論説委員⑥基地問題がライフワーク。雑誌「世界」でコラム「沖縄(しま)という窓」を隔月連載。共著に、「沖縄自立への道を求め」「観光コースでない沖縄」など。島マス記念塾4期卒。



フィールドワークⅢ「首里城探訪ツアー」(20期生)

お母さん あなたの成す業が
きらきら輝いています

己の生活をも捨て

日夜地獄の底をさまよう幼魂に

限らない愛と生きる喜びを

さとした寛大なあなた

お母よ あなたのはぐくむ果てなき愛は、

あわれ傷心のさとりを知らぬ幼稚な者らに

博愛の心を開き安らぎを与え

悪を成す業を心から憎み

正道を愛した勇氣あるあなた

お母よ あなたの愛は

新しい愛の息吹を注ぎ

見事に芽生えました

お母よ あなたの愛は尊く

その業は偉大でした

お母さん 心の愛をありがとう

お母さん (島マスさん) どうぞご無理をなさらずにいつまでも元気でい

て下さい。もっともっと長生きして人道を踏みはずした子供たちのために、

変わらぬ愛の言葉で育んでやって下さい。私は何もお役に立つことはでき

ませんが、陰ながら声援しています。女子ホームを出てから二十年余にな

ります。私はこれからまじめな心で生きていくようにがんばります。

ご安心下さい。



※この詩は、一九七九年島マスが琉球新報賞を受賞したとき、女子ホーム出身の「子」が氏にあてた匿名の新聞投書です。

お母さん あなたの尊い心が
 きらきら輝いています
 愛と夢をもぎとられ
 悪の吹き溜まりへと
 引きずられたあわれな幼魂に
 心のぬくもりと人の道を開いて
 優しくさとしてくれたあなた

更生の母に贈る詩



島 マス（與那覇朝大・画）

- 1900年 美里間切伊波村に生まれる
- 1919年 沖縄県女子師範学校本科第一部卒業、同年国頭郡山田尋常高等小学校訓導となり、1948年大洋初等学校を退職するまで29ヵ年余教鞭を執る
- 1948年 越来村駐在の厚生員に就任する。これを振り出しに生涯を社会福祉事業に尽くす
- 1952年 胡差児童保護所を設立
- 1953年 コザ女子ホームを設立
- 1958年 中部地区社協の事務局長に就任
 その後、市社協理事、市赤十字奉仕団委員長、中部地区老人クラブ連合会副会長、県更生保護婦人会初代会長、社会福祉法人こぼと福祉会理事長等数々の要職を歴任
- 1988年 7月8日永眠

◆ 表彰等 ◆

勲六等宝冠賞、全国老人クラブ連合会長賞、県功労賞、沖縄タイムス賞、琉球新報賞など60余の表彰を受ける。



カット・安仁屋政汎

島マスの福祉哲学

「チムグリサン」の心

- 一 あらゆる福祉課題に身を挺した積極性と寛容性
- 一 この社会に存在するすべてのものは必ず相互に関連しあっているという共生の精神
- 一 口かなる人も食に育て生命を存すしといたすなら福祉空論を避けた現実的・合理的生活主義
- 一 福祉は人であり人こそ福祉であるとする人間性||福祉本位主義

十二分に食べていて、余り物をもつたいをつけて恵むというのは、たしかにいやみですが、しかし、飢えている者にとつては、食べ物が必要なのです。私は、敗戦後のコザの街で、物乞いのようなことまでして、子どもたちの命を守ってきました。相手がアメリカ人であるとうと、お隣の人であるうと施しを受けてきたことは事実です。そして、私はこの人たちに感謝してきました。

※

沖縄の方言でいう「チムグリサン（心が痛む）」というこゝとばに、私は感動します。上から恵むのではなく、自分も腹をすかしていながら、少ない食事のなかから分けてやらなければ「自分の心が痛む」という、沖縄の民衆の心のありように感動するのです。

私は、この心を、たいせつにうけつぎ発展させたいと願っています。

私たちは、この本が一人でも多くのかたに読まれることを期待します。そして、島マス先生の志を継いでいく若い人たちが育ってほしいと心から願います。

島マス先生は伊波の小学校から美里の高等科へ進まれたとき

行きぐりしや^く苦りしや^{そなんやまくしく}楚南山城
ゆくん行きぐりしや^{そなんやまくしく}栄野比川崎

という琉歌を思い出したそうです。美里への通学路は、橋のない川をわたる難所であったということです。島マス先生の福祉の道は、まさに橋のない川を渡り、そこに新しい道をつけていく苦難なお仕事でした。こんどは、私たちが、バトンタッチをしていく番です。

=あとがきより〈抜粋〉=

(島マス先生回想録編集委員会編)



頒価 ¥1,800

塾 是

塾は島マスの福祉哲学を
継承発展させずての人々が
幸福に暮らしていける
まちづくりに貢献する。

塾 訓

塾生は、万事研修の心で
臨み、地域を知り、地域を
愛し、地域を誇れる人と
なることに努める。

基地の街の福祉に生きて

〈島マスの言葉〉

貧乏神は、ずっとついて回りました。

※

売春はたしかに悪い、悪いことは誰でも知っています。
〔中略〕「売春をやめる」ということは簡単です。しかしこの
人たちに、本当に自立できるような仕事を与えてやること
が先決です。私の役目はそれではないかと考えました。

※

行くあてのない児童たちを、ただちに引き取ってくれる
施設はありませんでした。このまま放置することはできま
せん。私は「心の痛み」にたえかねてこの子たちを自分の家
へつれてきて面倒を見ることにしました。そうするしか方
法がなかったのです。私の家族と周囲の者の悪戦苦闘がこ
こから始まることになりました。

※

私は、妻としては失格だと思いました。

※

私が、沖縄婦人連合会の理事に推せんされたとき「シラ
ミと同居しているような女性は、理事としてどうかと思う」
という声もあつたそうです。この話をきいたとき、「私のし
ごとは認められた」と思つたものです。私がシラミと同居
していることが那覇まで聞こえているとは、私も有名にな
つたものです。

※

福祉をすすめるのは人です

※

インテリのかたには、とくに若いインテリには、ポラン
ティアを毛嫌いな人もいます。善意の押し売りはいやだ
と言うのです。しかし、これはぜいたくというものです。

2015年度 島マス記念塾 講義課程表

【講義】

入塾式・・・2015年4月9日(木) 卒塾式・・・2016年3月13日(日)

時 間 割	内 容		時 間	備 考
第1時限	塾生会議	塾生会活動など [塾生⇔塾生/塾生⇔事務局]	19:15～19:30	—
第2時限	講義Ⅰ	主として講師による講演 [講師→塾生]	19:30～21:00	1コマ
第3時限	講義Ⅱ	(講義に関する) フリーディスカッション・質疑応答など [講師⇔塾生]	21:10～21:45	1コマ

日 付	テ ー マ		講 師 名
4/23 (木)	島マスの人物伝		北 村 京 子
5/7 (木)	沖縄が世界に誇れるもの美ら海		金 城 浩 二
6/11 (木)	沖縄の実像を伝える発信力 = 基地問題の深層と命の重さの二重基準=		松 元 剛
6/25 (木)	市民ミュージカル「コザ物語」の時代		嶋 津与志
7/9 (木)	障害と生活の質 = 豊かな暮らしを求めて=		仲 村 小夜子
7/23 (木)	沖縄の福祉ビジネスとユニバーサルデザイン		親 川 修
8/6 (木)	沖縄での物づくり		金 城 盛 順
9/10 (木)	人づくりの種をまく～文化で開く、人と地域と未来の話し～ (南東詩人的島哲学論)		平 田 大 一
9/24 (木)	琉球弧の自然と動物 = 沖縄の生活と動物=		高 田 勝
10/8 (木)	首里城と東アジア社会		恩 河 尚
11/12 (木)	ディベート入門＝スリリングな世界へあなたを誘う＝		屋比久 功
12/3 (木)	ディベート研究		卒 塾 生
12/17 (木)	懸命に生きる人々＝日本人こそ学んで欲しい＝		池 間 哲 郎
1/7 (木)	社協活動と島マスのココロ = 教科書にはない、もうひとつの視点・論点=		金 城 和 彦
1/21 (木)	沖縄のまちづくり		安 里 繁 信
2/4 (木)	島マスの人生と福祉 = その精神を継承する島マス記念塾=		名 嘉 隆 一
2/25 (木)	実践・ディベート vol.52		コーディネーター 大 田 義 浩

【フィールドワーク】

日 付	名 称	内 容	時 間	ツアーガイド
6/27 (土)	沖縄市の戦跡研修ツアー	倉敷陣地壕、奉安殿・忠魂碑など	13:00～18:00	伊 敷 勝 美
8/22 (土)	コミュニティビジネス視察ツアー	地域づくりの実践事例紹介及び視察など	11:00～18:00	親 川 善 一
10/31 (土)	首里城及び周辺歴史探訪ツアー	首里城、金城町石畳道、玉陵、識名園など	13:00～18:00	恩 河 尚

【キャンプセミナー】

日 付	季 別	内 容	時 間	コーチ等
5/23 (土) ～5/24 (日)	夏 季 (つづじエコパーク泊)	セミナーⅠ PA (プロジェクトアドベンチャー) 実践 セミナーⅡ 慶佐次川マングロープでのカヌー体験 交 流 会 (塾生・卒塾生・塾務会委員)	10時出発 ・ 13時到着	I PAファシリテーター II 東村内
11/28 (土) ～11/29 (日)	秋 季 (むら咲むら泊)	セミナーⅠ 目からウロコのコーチング体験 セミナーⅡ タイプに合わせたコミュニケーション法 交 流 会 (塾生・卒塾生・塾務会委員)	13時出発 ・ 13時到着	島袋 十史樹

※カリキュラムは講師の都合により変更される場合もあります。この場合講師間の移動となり、日程の変更はありません。

島マス記念塾塾則

■目的

第1条 本塾は、戦後沖縄の社会福祉の歴史を象徴する島マスの足跡をふまえて、変容する社会を捉えつつ、地域を愛し、地域を誇れる人材を創出するとともに、人と人が支えあうまちづくりの拠点とし、新たな福祉社会の形成に寄与することを目的とする。

■名 称

第2条 本塾の名称は、島マス記念塾 (以下、「塾」という) とする。

■事 業

第3条 塾は第1条の目的を達成するために、塾生を募集し、必要な講義・講座等を開催する。

2 塾の開講期間は1年とする。但し、塾生募集に関する詳細は、別に定める。

■設置主体

第4条 塾の設置主体は、社会福祉法人沖縄市社会福祉協議会(以下、「社協」という)とする。

■運営主体

第5条 塾の運営主体は、塾務会とする。

■塾務会

第6条 塾務会は委員8人以内で組織し、社協会長が委嘱する。

2 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

■役 員

第7条 塾務会に塾長及び副塾長をそれぞれ1名おく。

2 塾長及び副塾長は、委員の互選により選出し、社協会長が任命する。

3 塾長は会務を統括し、塾を代表する。

4 副塾長は塾長を補佐し、塾長に事故がある時はその職務を代行する。

■役 割

第8条 塾務会は、次の事項について審議する。

- (1) 塾の事業計画並びに予算に関すること
- (2) 塾のカリキュラム並びに講師の選定に関すること
- (3) その他、塾運営について必要と認められる事項

■専門委員会

第9条 塾務会には必要に応じて専門委員会を設置することができる。

■後援会及び懇友会

第10条 塾の活動を幅広く行うために、後援会及び懇友会を置くことができる。

2 後援会及び懇友会に関する詳細は別に定める。

■事務局

第11条 塾務会の事務局を、社協事務局内におく。

■会計年度

第12条 塾の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

■経 費

第13条 塾の運営に要する経費は、次の収入でもってあてる。

- (1) 受講料 (2) 補助金 (3) 寄付金 (4) その他

■委 任

第14条 この塾則に定めるもののほか、必要な事項は社協会長が別に定める。

■附 則

この塾則は、平成4年3月16日より施行する。

